

容量市場が再エネ新電力に 突きつける課題

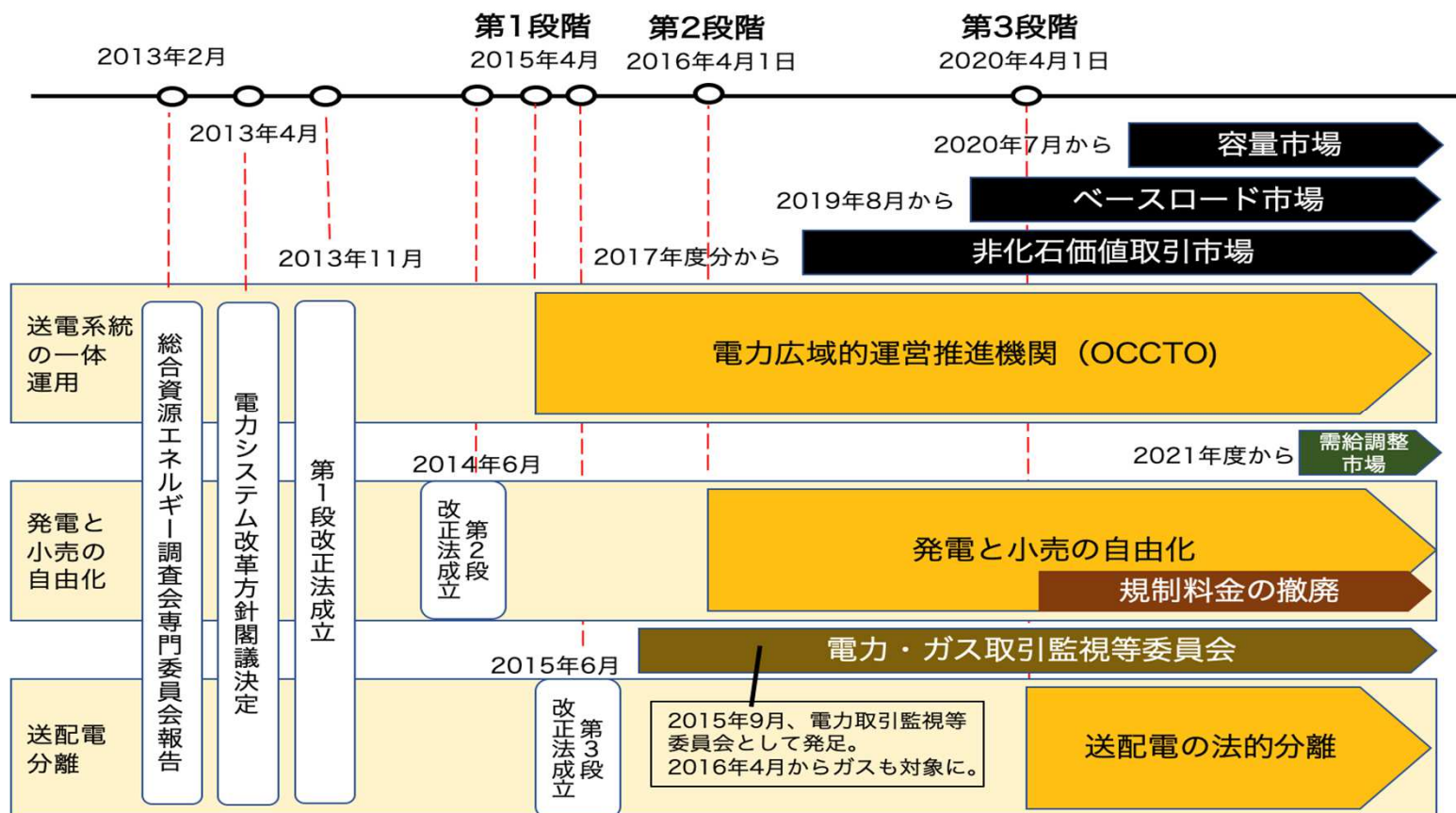
2020年10月15日

グリーンピープルズパワー株式会社

代表取締役 竹村英明

Green People's Power

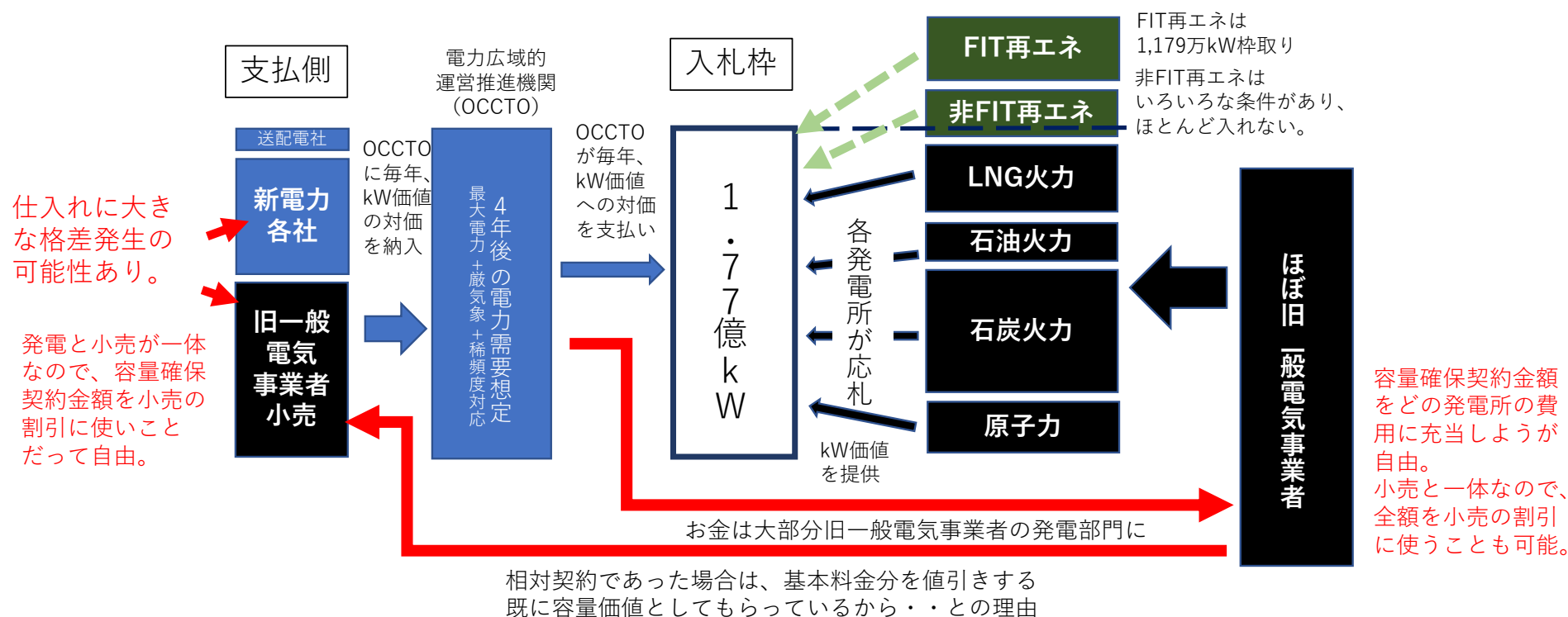
1、電力システム改革と電力新市場



作成：グリーンピープルズパワー株式会社

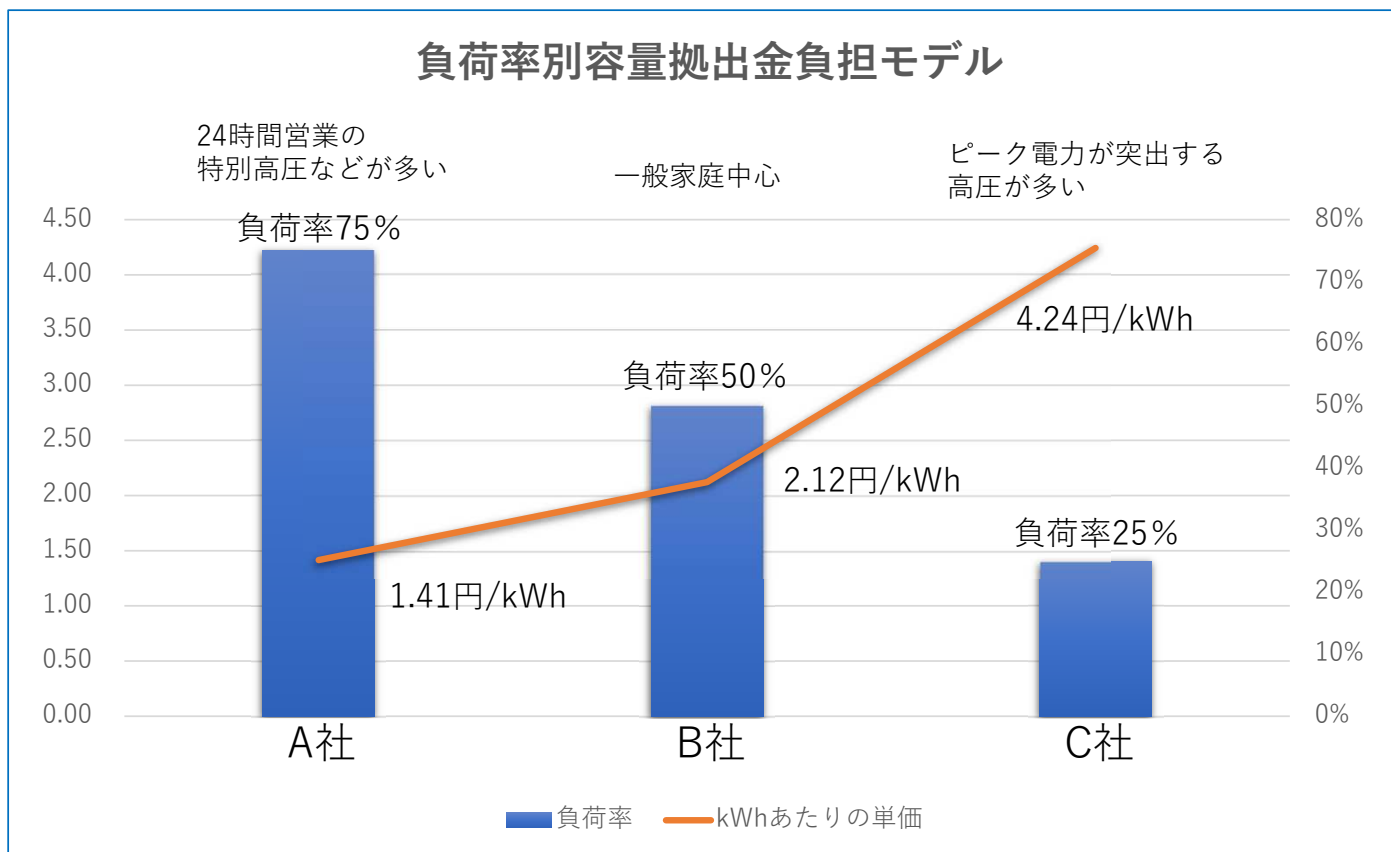
2、容量市場は原発と石炭への新たな補助金

旧一電以外の新電力からお金を踏んだくって、石油石炭天然ガスと原発にばらまく仕組み？
旧一電は発電と小売が「一体」。内部処理なので、容量に関係なく「好きに使える。」



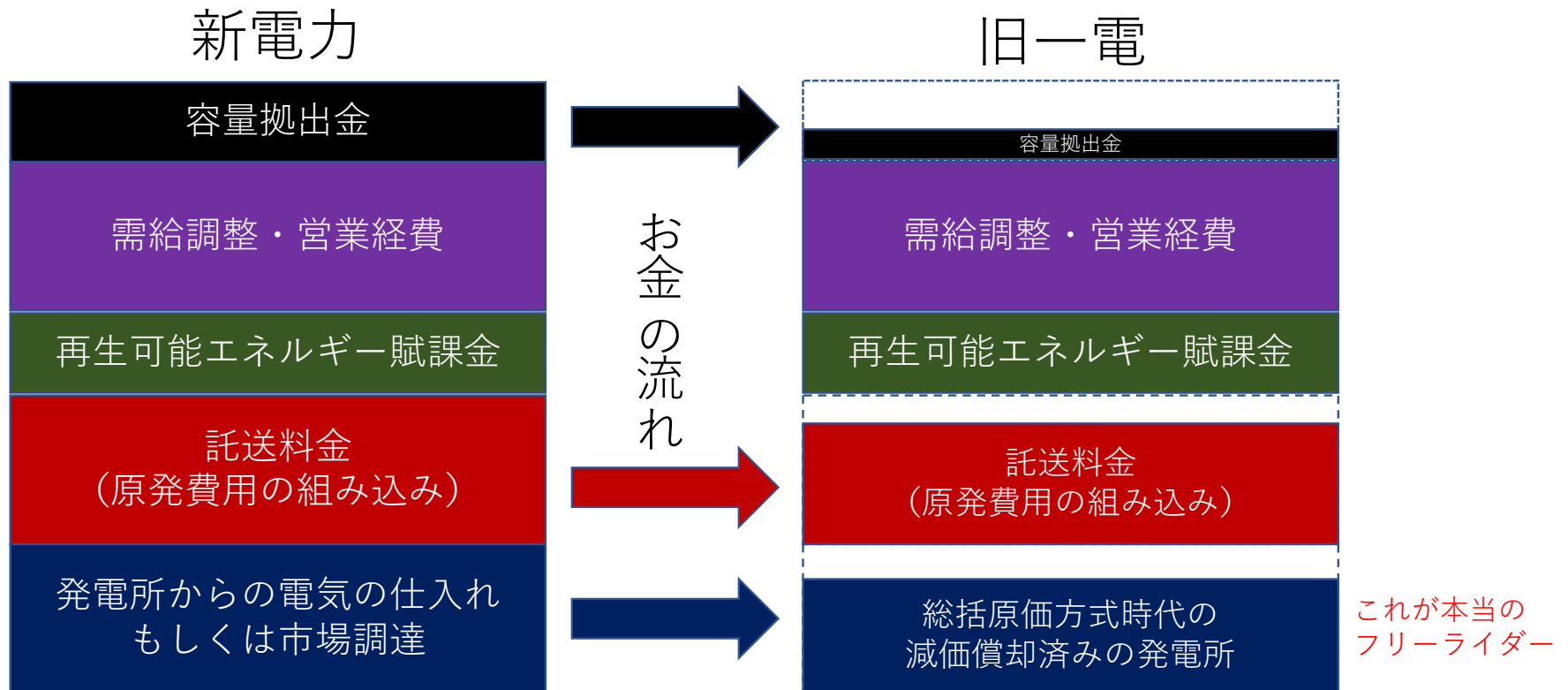
3、容量市場は新電力会社間の格差を拡大する。

最大電力（H3）が10MWで、負荷率が違う3社のモデルを作って比較した。



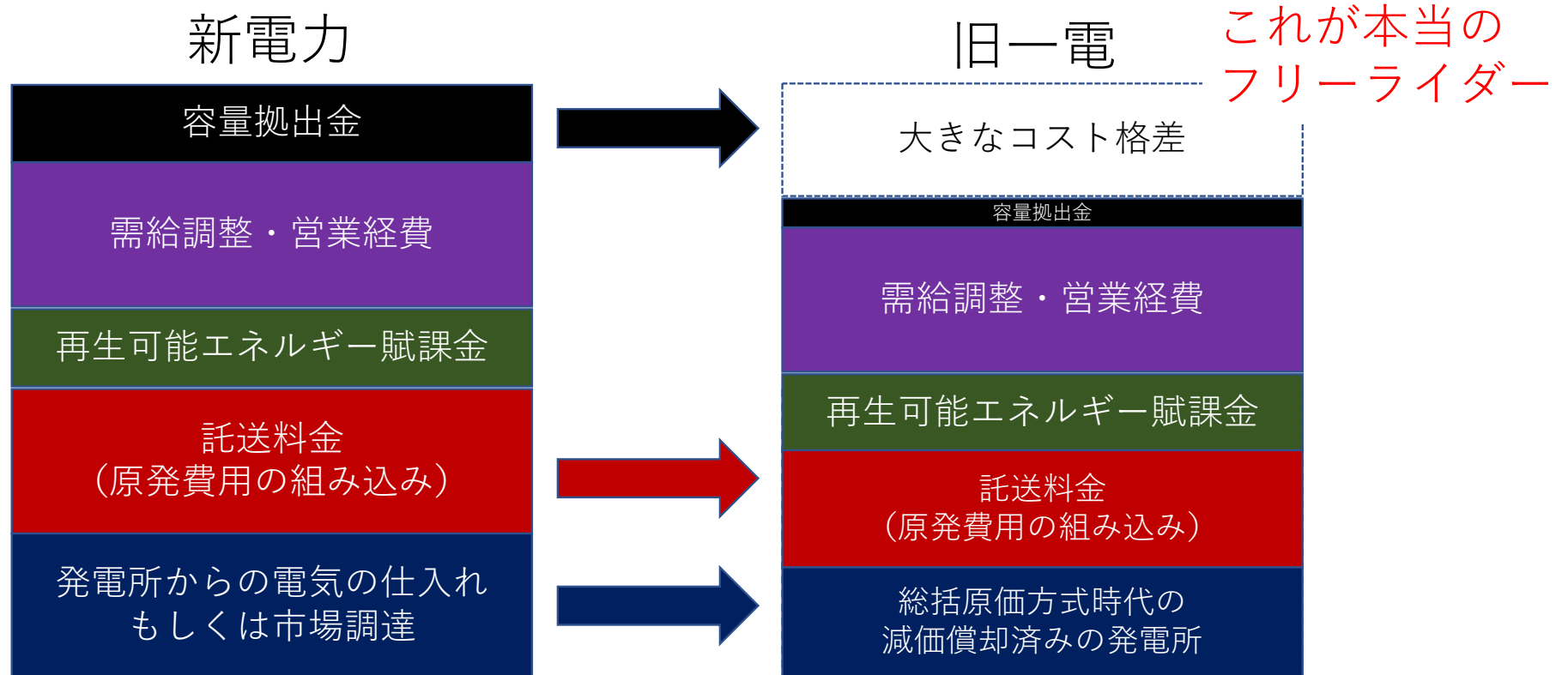
作成：グリーンピープルズパワー株式会社

4、容量市場だけではない、 旧一電のコストの付け回し。



5、 巧妙に作られた大きなコスト格差

こんなことが政策的に行われている！



6、目標調達量は妥当なのか

新電力各社（旧一電も含む）が、OCTTO（電力広域運営推進機関）に毎年提出する「供給計画届出書」に基づいて作られるらしい。10年先まで書かされるが、来年のことすら不確かなもの。傾向としては、ユーザーは増えるように、その需要を賄うために供給量は多めに・・・と作成する。その合計は正確か？

2020年6月3日

(参考) 目標調達量の算定諸元

電力広域的運営推進機関

<2020年度供給計画（2024年度断面）>

単位：万kW

	北海道	東北	東京	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	9社計
H3需要※1	499	1,354	5,298	2,440	491	2,634	1,043	491	1,540	15,790
H3需要 (離島除き)	498	1,349	5,295	2,440	491	2,634	1,041	491	1,522	15,761
目標調達量 ※2※3	H3需要(9社計)比 112.6%									17,747

※1 北海道、東北エリアは1月断面、その他エリアは8月断面

※2 目標調達量には、FIT電源の期待容量1,179万kW（11,789,258kW）を含む

※3 発動指令電源の調達上限容量は、473万kW（4,728,387kW）

7、新電力20数社連名で政府に申し入れ

容量市場の見直しと運用のあり方に関する要望事項

- ① 減価償却を終えた発電所やCO2排出係数の高い電源の退出を妨げない措置をすること
- ② 再エネ供給能力等をふまえて容量市場の目標調達量を最小化すること
- ③ 旧一般電気事業者にも有利、新電力にも不利な容量市場を根本から見直すこと

8、10月5日、環境大臣との意見交換

